教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 教育学科　　資格： 教授　　氏名： 北口　勝也

研究分野	研究内容のキーワード
教育心理学	応用行動分析、特別支援教育、発達障害
学位	最終学歴
博士（心理学）,文学修士,文学士	関西学院大学大学院 文学研究科 心理学専攻 博士後期課程 満期退学

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.教育現場での実践を通じた行動分析学教育	2002年4月～現在	隣小学校および幼稚園において、特別支援教育対象児の行動観察・測定および、応用行動分析による支援法の提案をスーパーバイズしている
2.パソコンを活用した授業展開	2001年4月～現在	パワーポイントを用い、視聴覚教材を豊富に取り入れた授業展開。ホームページを用いた自主学習（予習、復習、参考文献の提示）。
2 作成した教科書、教材		
1.専修学校教育総論	2006年6月現在	共著。専修学校教員研修のための教科書。第８章「青年のこころ」を担当
2.学習心理学における古典的条件づけの理論－パヴロフから連合学習研究の最先端まで－	2003年6月現在	共著。1960年代以降の古典的条件づけ理論を解説した大学院生レベルの教科書。第３章「随伴性理論」を担当
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1.大学院生に対するスーパービジョン	2003年4月1日2005年3月31日	児童養護施設において被虐待児への心理相談を行うと同時に大学院生に対するスーパービジョンを実施した。

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.医療現場で役立つ心理学	共	2020年3月31日	ミネルヴァ書房	「現場で役立つ」ことをコンセプトに、医療をはじめ対人援助職すべてを対象に編まれたテキスト。第３章「学習（行動と環境の関係を知る）」の執筆を担当。経験による行動変容としての「学習」メカニズムを概観し、恐怖症治療や応用行動分析による発達障害児への療育など教育・臨床場面への応用を解説した。
2.現代心理学シリーズ４－動機づけと情動－	共	2015年10月	培風館	（今田純雄・北口勝也編著）大学生向けの心理学教科書で、全15巻中の1巻。著者としては３・４・５章を執筆。編者として全体の構成とチェックを担当した。
3.専修学校教育総論	共	2006年6月	北樹出版	久田敏彦・長尾彰夫・近藤大生・田中博之・中谷彪・石田雅人・児玉典子・北口勝也・神谷孝男・秦健吾・森実著。第８章「青年のこころ」（pp.99-109）を担当。専修学校教員研修のための教科書。
4.学習心理学における古典的条件づけの理論－パヴロフから連合学習研究の最先端まで(B)	共	2003年6月	培風館	今田寛・漆原宏次・川合伸幸・北口勝也・澤幸祐・獅子々見照・嶋崎恒雄・土江伸誉・中島定彦著。第３章「随伴性理論」（pp.19-28）を担当。1960年代以降の古典的条件づけ理論を解説した大学院生レベルの教科書。
2 学位論文				
1.「無関係」という関	単	1999年9月	関西学院大学	博士論文

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2 学位論文				
係に関する実験心理学的考察 2.古典的条件づけにおける真にランダムな手続きについて	単	1993年3月	関西学院大学	修士論文
3 学術論文				
1.アセスメント・ポリシーの評価・測定指標に関する体系的整理	共	2025年3月4日	武庫川女子大学紀要，72，26-35	前田淳宏との共著。各大学が公表するアセスメント・ポリシーを概観してそれがどのような評価・測定指標で構成されているかを整理したうえで、全体の傾向及び特徴を把握する。なお、今回は紙幅の都合上、表 1 に示した機関レベル」に記載される評価・測定指標に限定した整理を試みた。
2.不安障害の病因としての誤った条件づけ仮説	単	2019年10月	精神科治療学第34巻10号，1123-1127	不安障害のうち、パニック障害、社交不安障害、特定の恐怖症、そして類縁のPTSDは、その発症機序として、不安を喚起する無条件刺激と対提示された刺激に対して不安を感じるという古典的条件づけという学習過程が考えられる。この仮説について、その歴史的経緯、神経メカニズム、治療と再発の機序について概観した。
3.随伴性判断課題における「無関係性」の認知を規定する諸要因（査読付き）	単	2016年3月	武庫川女子大紀要（人文・社会科学）63巻,13-20	認知心理学分野における随伴性判断課題において、２事象間の客観的随伴性がゼロである状況における判断に関する研究を概観し、「無関係性」認知を規定する諸要因について展望した。
4.自閉症スペクトラム傾向とストレスコーピングの関連ー効果的なストレスマネジメントを目指してー（査読付）	共	2015年3月6日	武庫川女子大学教育学研究論集第10号pp.9-16	（伊勢由佳利・北口勝也・十一元三）大学生に自閉症スペクトル指数日本語版（AQ-J）を実施し、ASD傾向の高低によって高AQ群と低AQ群とに分けた。その結果、高AQ群はPOMSの「抑うつ-落ち込み」「疲労」「混乱」因子において高い値を示し、ストレス尺度においては「情緒的反応」および「引きこもり反応」において高い値を示した。さらに、高AQ群はストレスコーピングの実施数が少ないという結果も得られ、今後のASD者に対する支援に有用な示唆を得た。調査の実施及びデータの分析を担当した。
5.小学校通常学級担任教員における賞賛行動と応用行動分析の理解との関係（査読付）	単	2015年3月6日	武庫川女子大学教育学研究論集第10号 pp.1-8	公立小学校教員68名に、応用行動分析に関する理解及び「罰による児童管理傾向」を問う質問紙に答えていただいた。その結果、以下の３点が明らかになった。第１に，教員経験年数が長いほど，強化子を用いる傾向が低く「罰による児童管理傾向」が高かった。第２に，応用行動分析を理解している程度と「罰による児童管理傾向」との間に負の相関が見られた。第３に，実際に行う賞賛行動は，「罰による児童管理傾向」と負の関係にあり、かつ応用行動分析の理解度とは正の関係にあった。
6.応用行動分析を用いた教育コンサルテーションの実際－コンサルティとしての小学校教諭と幼稚園教諭の違い－（査読付）	単	2013年3月	武庫川女子大学教育学研究論集第8号pp.9-15.	幼稚園・小学校における特別支援教育に関して、応用行動分析の概論と実技を含むコンサルテーションの実践例を紹介し、その効果の検証を行った。特に小学校教諭と幼稚園教諭の行動の違いについて検討した。
7.応用行動分析を用いた教育コンサルテーション	単	2010年3月	武庫川女子大学教育学研究論集第5号pp.33-40.	幼稚園・小学校における特別支援教育に関して、応用行動分析の概論と実技を含むコンサルテーションの実践例を紹介し、その効果の検証を行った。
8.教員養成における海外留学の役割－武庫川女子大学文学部教育学科MFWIプログラムの成果と展望－	単	2009年6月	武庫川女子大学教育学研究論集第4号pp.49-62	大学教職課程におけるアメリカ分校での留学プログラムの内容とその効果の検証を行った。
9.Recent learned helplessness/irrelevance research in Japan: Conceptual framework and some experiments on learned	共	2002年6月	Integrative Physiological & Behavioral Science	（Imada, H. & Kitaguchi, K）2000年に開かれた”27th International Congress of Psychology”におけるシンポジウム発表をまとめたもの。論文執筆のほとんどを担当した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
irrelevance. （査読付）				
10.「無関係」という関係に関する実験心理学的考察（査読付）	単	2002年6月	動物心理学研究52巻1号 pp.45-52.	2001年に開かれた日本動物心理学会第61回大会における小講演をまとめたもの。「学習性無力感」および「無関係性学習」を随伴性という観点から分析した。
11.女子短大生の恋愛とストレスー帰属スタイルとの関連について	単	2001年10月	大阪私立短期大学協会研究報告集第38集 pp. 78-85	女子短大生にとってストレスフルな「失恋」という経験の捉え方が、個人が持つ帰属スタイルによって異なることを示した。
12.Initial excitatory conditioning with the truly random control procedure in rats: The effects of density of the conditioned stimulus （査読付）	単	2001年9月	Japanese Psychological Research, Vol. 42, No. 3, 135-143.	古典的条件づけにおけるTRC手続きがもたらす初期条件づけ効果が条件刺激の密度に比例して大きくなることを明らかにした。
13.消去された恐怖反応の文脈変化による再出現－ラットの条件性摂水抑制事態での検討－ （査読付）	共	2001年2月	心理学研究71巻6号 pp.493-497	（玉井紀子・中島定彦・北口勝也・今田寛） 一旦消去された条件性の恐怖反応が、別の文脈におかれることによって再出現することを、ラットの条件性摂水抑制事態で明らかにした。データ分析及び論文執筆の一部を担当した。
14.無関係性事態における動物の学習と行動（査読付）	単	2000年6月	動物心理学研究50巻１号 pp. 1-11	動物を用いた「学習性無力感」および「無関係性学習」を概観し、学習の質、随伴性、強化子の質、という３次元からこれまでの知見を分類整理した。
15.Characteristics of sequential movements during early learning period in monkeys（査読付）	共	2000年2月	Experimental Brain Research, Vol.131, 293-304.	(Rand M. K., Hikosaka, O., Miyachi, S., Lu, X., Nakamura, K., Kitaguchi, K., and Shimo, Y.) ニホンザルのボタン押し系列記憶課題を用いて、手続き的学習の初期段階での性質を明らかにした。 実験の実施およびデータ分析を担当した。
16.Evidence for within-compound learning in an instrumental conditioning with rats （査読付）	共	1999年5月	Behavioral Processes, Vol. 44, No. 4, 317-322.	（Kawai, N. & Kitaguchi, K.） ２種類の信号を複合提示した場合に、お互いの間の連合が生じることを、ラットを用いた回転かご走行場面で実証した。実験の実施およびデータ分析を担当した。
17.Signaled reinforcement effect on fixed-interval performance of rats with lever depressing or releasing as a target response（査読付）	共	1998年5月	Japanese Psychological Research, Vol. 40, No.2, 104-110.	（Kitaguchi, K. & Nakajima, S.） ラットを用いたオペラント条件づけの信号強化効果が反応の様相によって異なることを明らかにした。実験の実施およびデータ分析を担当した。
18.人間は「無関係」という関係を学習できるか？	共	1998年2月	関西学院大学人文論究47巻4号 pp. 79-98.	（北口勝也・今田寛） 人間の「学習性無力感」、「随伴性判断課題」の知見を整理し、動物実験との関連を論じた。論文失費tのほとんどを担当した。
19.「学習された無関係性」現象に関する最近の研究動向	共	1996年12月	関西学院大学人文論究46巻3号 pp. 98-115	（北口勝也・今田寛） 古典的条件づけ場面における「学習された無関係性」現象に関わる論争を概観し、初期条件づけを指標とした新しい研究法を提案した。論文の執筆のほとんどを担当した。
20.古典的条件づけにおける真にランダムな統制手続き（TRC手続	単	1996年9月	心理学評論39巻2号 pp. 224-251	古典的条件づけにおけるTRC手続きがもたらす様々な現象を概観し、初期条件づけ効果を指標とする、テスト手続きとしての利用法を提案した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
き）をめぐる諸問題（査読付）				
21.真にランダムな統制手続きにおける初期条件づけ効果に及ぼすCS強度の効果（ラット）（査読付）	単	1996年6月	動物心理学研究46巻1号 pp. 9-20	古典的条件づけにおけるTRC手続きがもたらす初期条件づけ効果が条件刺激の強度に比例して大きくなることを明らかにした。
22.Signaled reinforcement effects on fixed-interval performance of the rat. （査読付）	共	1996年5月	Animal Learning & Behavior, Vol. 24, No. 1, 183-192.	Nakajima, S. & Kitaguchi, K ラットを用いたオペラント条件づけにおいて、強化子の直前に信号を挿入することが反応率を高めることを明らかにした。実験の実施およびデータ分析を担当した。
23.古典的条件づけにおける随伴性の指標－Granger & Schlimmer (1986)の理論を中心に－	単	1996年2月	関西学院大学人文論究45巻4号(pp. 129-148)	古典的条件づけにおける随伴性の指標を概観し、現象の記述と理論からの予測を分離した。
24.Effects of negative contingency upon conditioned suppression of licking in rats: Systematic manipulations of session length and number of shocks（査読付）	共	1995年12月	Japanese Psychological Research, Vol. 37, No. 4, 210-220.	Kitaguchi, K. & Imada, H. ラットの条件性抑制課題を用いて、負の随伴性が制止を条件づけることを明らかにした。実験の実施・データ分析および論文執筆を担当した。
25.動物は「無関係」という関係を学習できるか？	単	1994年12月	関西学院大学人文論究44巻 3号	動物を用いた「学習性無力感」および「無関係性学習」を概観し、両者を共通の枠組で整理した（pp. 66 - 82）
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
1.科学的に考えるための基本－心理学の場合－	単	2012年3月24日	日本音楽療法学会第10回近畿学術集会	音楽療法が今後、エビデンスを伴った療法として社会の信頼を得るための方向性を、「科学的手続き」から説明した。
2.応用行動分析による患者行動の統制	単	2009年6月28日	日本成人矯正歯科学会第17回大会	応用行動分析を用いて患者の行動を統制できる可能性を示した。
２．学会発表				
1.小学生における原因帰属スタイルと学習意欲の関係	単	2010年10月	日本児童青年精神医学会第51回総会	児童個人が持つ原因帰属スタイルが内発的動機づけに及ぼす影響を、性差や学年差という観点から検討した。
2.大学生における自閉的傾向と日常ストレスとの関係	共	2010年3月	日本発達心理学会第21回大会	（北口勝也・伊勢由佳利） 大学生の自閉的傾向が高ければ高いほど、疲労や不安などストレスを持っている程度が高いことを示した。
3.公立幼稚園における自閉症児－支援者間の相互作用	単	2009年3月	日本発達心理学会第20回大会	公立幼稚園において指導者と園児の行動を分析し、称賛の機会を増やすことで適切な行動を導けることを示した。
4.Recent learned helplessness/irrelevance research in Japan: Conceptual framework and some experiments on learned irrelevance	共	2000年7月	27th International Congress of Psychology	(Imada, H., and Kitaguchi, K.) 日本における、「学習性無力感」「無関係学習」研究を概観し、３次元から成る枠組みを提供した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
5.Effects of visual display rotation on human spatial sequence learning	共	1999年11月	29th Annual meeting of Society for Neuro-science	（Kitaguchi, K., Sakai, K., and Hikosaka, O.） 人間はボタン押し系列を記憶した後、ボタン配列を回転させると、以前に経験した配列であるという意識がないにもかかわらず反応時間が短いことがわかった。
6.宣言的記憶および手続き的記憶における空間的配置回転の影響	共	1999年10月	日本心理学会第63回大会	（北口勝也・坂井克之・彦坂興秀） 人間はボタン押し系列を記憶した後、ボタン配列を回転させると、宣言的記憶としては表れなくても、手続き的記憶が増進していることがわかった。
7.ニホンザルにおける手続き的記憶の長期保	共	1999年5月	日本動物心理学会第59回大会	（北口勝也・彦坂興秀） ニホンザルは18ヶ月前に記憶したボタン系列を記憶していることがわかった。
8.「学習された無関係性」現象とTRC手続き（ラット）	単	1998年5月	日本動物心理学会第58回大会	初期条件反応が消失するまでTRC手続きを経験すると、後の条件付けの遅れが見られることを示した。
9.随伴性判断課題における結果事象の感情価の効果	共	1997年9月	日本心理学会第61回大会	（北口勝也・嶋崎恒雄・今田寛） 信号事象と結果事象の随伴性を判断させる課題において、結果事象が電撃の場合、非随伴事態を随伴していると観るバイアスが顕著に見られた。
10.TRC手続きの初期条件づけ効果と早期消去現象（ラット）	単	1997年4月	日本動物心理学会第57回大会	TRC手続きがもたらす初期条件反応が、通常の条件反応よりも早く消去されるされることを、無条件刺激の密度を統制した条件で示した。
11.古典的条件づけにおけるTRC手続きの初期条件づけ効果と早期消去現象	単	1996年9月	日本心理学会第60回大会	TRC手続きがもたらす初期条件反応が、通常の条件反応よりも早く消去されるされることを、無条件刺激の数を統制した条件で示した。
12.TRC手続きの初期条件づけ効果とCRの質的分析（ラット）	単	1996年4月	日本動物心理学会第56回大会	TRC手続きがもたらす初期条件反応が、通常の条件反応よりも早く消去されるされることを示した。
13.古典的条件づけにおけるTRC手続きの’初期条件づけ効果’とCS強度	共	1995年10月	日本心理学会第59回大会	（北口勝也・今田寛） 古典的条件づけにおけるTRC手続きがもたらす初期条件づけ効果が条件刺激の強度に比例して大きくなることを明らかにした。
14.ラットのFIパフォーマンスに及ぼす信号強化効果－Depress or Release－	共	1995年8月	日本動物心理学会第55回大会	（北口勝也・中島定彦） ラットを用いたオペラント条件づけの信号強化効果が反応の様相によって異なることを明らかにした。
15.比喩の認知における被喩辞と喩辞との顕著性落差の効果	共	1994年11月	関西心理学会第106回大会	（北口勝也・竹田憲司・今田寛） 比喩の面白さを認知する場合、被喩辞と喩辞との顕著性落差が大きいことが重要であることを示した。
16.古典的条件づけにおけるCSがシドマン型回避に及ぼす影響	共	1994年10月	日本心理学会第58回大会	（北口勝也・今田寛） 古典的条件づけのCSが、場面の相違を越えてシドマン型回避に影響を及ぼすことを明らかにした。
17.ラットのFIパフォーマンスに及ぼす信号強化効果の一般性	共	1994年8月	日本動物心理学会第54回大会	（北口勝也・中島定彦） ラットのレバー押し訓練において、強化子の直前に信号を挿入することが反応率を高めることを示した。
18.ラットを用いた条件性抑制事態におけるTruly Random手続きの初期条件づけ効果につい	共	1993年7月	日本動物心理学会第53回大会	（北口勝也・今田寛） 古典的条件づけにおけるTRC手続きがもたらす初期条件づけ効果が条件刺激の密度に比例して大きくなることを明らかにした。
19.Pavlov型条件づけにおける条件性制止に及ぼす、CSとUSの負の随伴性の効果について(2)	共	1992年7月	日本動物心理学会第52回大会	（北口勝也・今田寛） ラットの条件性抑制課題を用いて、負の随伴性が制止を条件づけることを加算法で明らかにした
20.Pavlov型条件づけにおける条件性制止に及ぼす、CSとUSの負の随伴性の効果につ	共	1991年5月	日本動物心理学会第51回大会	（北口勝也・今田寛） ラットの条件性抑制課題を用いて、負の随伴性が制止を条件づけることを遅滞法で明らかにした

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
いて				
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.パピーニの比較心理学	共	2005年8月	北大路書房	Mauricio R. Papini著。比較心理学研究会（石田雅人・山下博志・児玉典子・藤健一・坂田省吾・中野良彦・川合伸幸・大柴宣昭・北口勝也）訳。第12章「発達初期の社会的学習と社会的行動」第３節「発声行動の発達」（pp.363-374）を担当。現代の動物心理学、比較心理学を網羅した専門書。
６．研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2009年10月～現在	日本児童青年精神医学会 日本発達心理学会 日本教育心理学会 日本心理学会